

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム今が一番館 西棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372101006		
法人名	特定非営利活動法人 今が一番館		
事業所名	グループホーム今が一番館 西棟		
所在地	020-0624 岩手県滝沢市妻の神157-3		
自己評価作成日	令和3年12月4日	評価結果市町村受理日	令和4年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護理念に基づき、利用者に寄り添う介護を続けている。毎日清掃、換気、消毒等行い、新型コロナウイルス感染症予防に努めている。面会、外出もままならない状況が続く中、利用者の認知機能、体力が低下しない様、アセスメントし、一人ひとりにあった支援を見極めケアプランにつなげ、個別ケアに取り組んでいる。全員で行う、体操、口腔体操、レク、様々な行事についても棟の中ではあるが職員が一丸となって取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、菓子地区内を走るIGR線の東側に立地し、周辺は民家も少なく閑静な場所にある。法人が運営するデイサービスの両側に東棟と西棟があり、建物内で往来できる構造となっている。広い敷地内にある畑では、花や野菜を育て、花は最寄の菓子駅の花壇に提供し地域貢献の一助としている。理念「いつもあなたの傍らに私たちがいます」は、職員に周知徹底され、利用者が安心して生活できるケアを提供している。利用者は、102歳の最高齢を筆頭に、言葉で意思表示できる利用者が多く、毎身体操や裁縫などの趣味に興ずるなど、生き活きた生活を送っている。かかりつけ医の協力を得、看取りも行なっている。業務の推進にあたり、2ユニットのメリットを活かし、合同の業務委員会、身体拘束適正化検討委員会等各種委員会で、業務の効果的取り組みや課題の改善に努力している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年1月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム今が一番館 西棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を書いた紙をホールをよく見える所に貼り、職員一人ひとりが理念を理解、共有し支援を行っている。	事業開始時設定した介護理念を大切にしている。勉強会(月1回)で理念の話をし、職員一人一人が理解し、共有している。理念の実現に向け、職員個々が年間業務目標を決め、利用者が安心して生活できるケアに努めている。	理念の「寄り添う支援」の取り組みとして、ある職員は「利用者の状況に応じた安心の介護を提供する」を目標に掲げ、日々のケアに努め、利用者となかも孫の関係を構築している。今後も、利用者一人一人の支援の形を追求されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域交流等は行っていない。	コロナ禍で、事業所での地域との交流は控えている。施設長が地域や関係機関の依頼で講演するなど、認知症の啓発普及を担っている。市中でオレンジカフェを開催し、地域の方々や他のグループホームの利用者も参加して楽しいひと時を過ごしている。地域貢献として、事業所の園庭で育てた花を、最寄り駅の花壇に提供している。	毎週木曜日(午後)には、市内スーパーで「スローショッピング」として利用者が買い物体験を行っており、同行の職員がヘルパーとして、買い物にとまどっている高齢のお客様をお世話することもある。アイデアにとんだ取り組みであり、地域貢献の一つとして今後も継続を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記と同じ理由により制限しているが、認知症まちかど相談など、非接触でできる活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。包括、民生委員、ご家族、自治会から参加して頂き、ホーム内の近況報告も兼ね、毎回テーマを決めて取り組みなどのアドバイスを頂いている。災害対策、地域交流など頂いた情報をもとに新たな取り組みが出来ている。	運営推進会議は、密を避けるため、事業所内から地区の集会室に変更し開催している。毎回テーマを設定し、10月は「防災・防犯対策」として災害時の非常食、火災時の避難訓練、夜間避難訓練、防犯対策等の現状を紹介し意見交換を行っている。委員には、事業所の現状を更に理解していただく機会にもなっている。欠席の委員には、書面で意見、要望を聞いている。	毎回会議のテーマを決めており、意見が出やすいこと、マンネリ化を防ぐ一助になっていると思われ、今後も工夫されることを期待する。委員として、以前利用者が参加していたが、長時間座って居れないこと等から、現在は参加していないが、今後、参加について検討されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会、地域包括支援センター等に相談、援助を受けている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し、意見や助言をいただいている。施設長は、市や関係機関の介護に係わるセミナーやオレンジカフェの開催、ボランティア活動等を積極的に行っており、行政との信頼と協力関係が得られている。市の介護相談員を受け入れており、リモートで利用者とは対話している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム今が一番館 西棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束委員会を開催。月1回の勉強会にて身体拘束廃止について宣言を職員全員で唱和している。職員全員が身体拘束の行為を理解し、毎日の支援を行っている。	「身体拘束適正化検討委員会」を設置し、3ヵ月に1回開催している。委員は、施設長、ユニットリーダー、看護師、両棟職員代表で構成している。身体拘束しないケアについて、毎月の勉強会や実務を通じて職員に周知徹底している。	身体拘束適正化検討委員会で、排泄介助時、羞恥心から排泄用品の交換に抵抗する利用者に対して力づくでの対応をせずに、どのような言葉かけや仕草がいいのか等を話し合っており、今後も、実例に沿った取り組みを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが虐待に関して学習し、自覚を持ちながら支援している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員一人ひとりが学習し、情報の提供を行い、話し合いながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が対応しているが、施設長不在時は職員が説明を行い契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートの回答を参考に、満足していただけるよう努力している。職員が生活の様子を伝え、家族からの要望を聞き支援につなげている。	利用者の多くが自身の思いを伝えることができるが、運営に関する意見は殆どない。家族には、1ヵ月毎に利用者の暮らしぶりを写真を添えて送付し、写真の元気な姿を見て安心できるとの感謝の言葉が寄せられている。家族アンケートを年2回ほど実施し、家族の意見や要望を勉強会で検討しケアに活かしている。運営推進会議でも家族代表から意見要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り、月1回の勉強会、気づいた時にはその都度話し合いの機会を設けている。	朝の申し送り、毎月の勉強会、各種委員会などで職員の意見を聞いている。職員の提案で、糖尿病の利用者の進行を抑えるため、食事を工夫して提供している。夜間の時間帯に、所長が職員と個別に話しを聞く機会を設け、悩みを聞いたり、業務のステップアップを図るためのアドバイスをこなしている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム今が一番館 西棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理票、職員能力評価シートを用いて個人の努力した経緯や現状の能力を適切に判断し評価を行っている。また、保有資格を判断材料に取り入れ、個人の努力が反映される給与体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに自己目標を設定し、その内容を上司が把握し、サポート出来る体制を整えている。自己目標で本人の希望する内容や個人のレベルアップに必要なと思われる研修が受講出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	WEB(Zoom等)、メール、電話等で情報収集、意見交換など交流を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に自宅や病院に伺いご本人とお会いしている。会話の中から安心してホームでの生活を送って頂ける様支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所時に困っている事、不安な事、要望などを伺い、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とは会話の中から、ご家族にはセンター方式によるアセスメントの記入にご協力頂き、関わった方からの情報収集も含め、必要なサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの生活状況、ペースを大切にしながらやりたい事、出来る事を見極め1日の生活を助け合いながら送れるようにしている。		

事業所名 : グループホーム今が一番館 西棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればなるべく早くご家族へ連絡し、報告しながら、解決策を一緒に考えたりする事や、入所前の話などを聞かせて頂いている。改めて発見があり、ケアにつなげることもできている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出支援は出来ていないが、手紙や電話の支援はできている。	外出を控えているが、馴染みの場所をドライブし、四十四田ダム公園の四季の風景や高松の池の白鳥を車窓から眺めている。理容師が月1回散髪に来訪し、数少ない馴染みの人になっている。毎週木曜日午後1時から3時まで近くのスーパーで買い物し、利用者本人が自分で会計をしている。同行している職員は、買い物に困っているお客様にヘルパーとしてお手伝いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く過ごせるよう、共用スペースの飾りつけや花を飾ったり、時には職員が間に入って話のきっかけ作りをしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも様子を伺ったり、手紙を書くこともあれば、ご家族からご相談頂いた場合はご要望に沿った支援をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活に気づきをもって、利用者が穏やかに生活出来る様状況を見極め、共有し、利用者の生活サポートに努めている。	入居時や日々の生活の中で把握した事柄は、センター方式を使用して整理し、介護計画や生活支援に役立てている。利用者は、おやつのお茶の代わりに牛乳やコーヒーを飲みたいと、言葉で意思表示できている。口腔体操の一環として皆で歌を歌ったり、努めて会話するよう心掛け、刺激を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中で、本人がふと思い出して言った事を記録したり、ご家族との会話や聞き取りをしながら、情報収集に努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム今が一番館 西棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の体調管理、今出来ることなどの観察を行いながら、その人らしい生活が出来る様支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、職員が意見交換しながら作成している。参加できない職員は事前にカンファレンスシートに記入をしてもらっている。	介護計画は、月1回のカンファレンスで、6名(東・西各3名)づつを検討して、3ヵ月毎の見直しとしている。カンファレンスに参加できない職員は、事前に意見を提出している。利用者の現状把握と改善点を話し合い、見直し案を決め、家族の同意を得た上で介護計画を作成している。介護計画とサービス内容は、毎日のA3サイズの生活日誌に記載され、職員は共通の認識の下でケアに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録を用い、一日の様子が一目で分かるようにしている。本人の言った言葉をそのまま記入するなど、細かく記録しているため、その日いなかった職員にもその日の状況がよくわかるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態、状況などに合った生活が出来る様支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の相談員と、月一回のタブレット面会ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医には開設当初から利用者の健康診断、各種ワクチン接種を行って頂いている。希望される方は入所以前からのかかりつけ医に継続して受診できるよう支援している。	入居時に、かかりつけ医の継続について確認している。家族の受診同行が困難な場合には、協力医に変更している。協力医は同じ巣子地区にあり、重度化した場合の適切な助言や事業所内でのワクチン接種など親身に対応してくれている。かかりつけ医の診察には看護師が同行しており、家族から感謝されている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム今が一番館 西棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の申し送りで情報を共有している。通院はホームの看護師が担当しているため、介護職員の気づきや利用者の変化等も担当医に伝えてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	気になることや、何かあれば家族や病院と細目に連絡を取り、状態の把握、情報交換をしようとしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に施設の指針を説明し同意を得ている。状況に応じてかかりつけ医の指示を受け対応している。	これまで、家族の要望に応じて多くの看取りを経験している。協力医は終末期の対応として看取り診療を止め入院に切り替えていきたいとの意向を持っているが、昨年末にその協力医の指導の下で看取りを行なうことが出来た。看取りを希望している利用者もいることから、かかりつけ医の指示を得ながら、看護師が日々観察し適切な支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生に対するマニュアルがある。発生時には看護師に相談、指示を受けながら対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の緊急連絡網、役割分担表を作成し、共有している。危機管理委員会を設置し必要物品の購入、管理を行い、全職員が利用方法を周知している。	災害対策は、職員で構成する危機管理委員会が中心となって企画・運営しており、火災防止訓練や夜間の避難訓練を行ない、年1回は消防署立会いで実施している。避難場所は敷地内の車庫とし、事業所周辺は民家が無く、地域住民の協力を得られないため、職員が見守る体制となっている。危機管理委員会では、避難訓練に限らず、停電した場合の物品の購入や夜間の防犯のために外灯を設置するなど幅広く活動している。	災害時、事業所周辺は民家が無く地域住民の協力は得られないことから、今後、運営推進会議委員の、避難訓練時の参加・協力を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ、入浴時は戸を閉める、タオルやバスタオルで隠すなど、プライバシーに気を配っている。	利用者に、不快感や危惧の念を抱かせることなく、穏やかに生活できる環境づくりに努め、利用者の中で、職員同士が私語を交わさないよう特に注意している。職員17名中男性職員が7名で女性利用者は16名であるが、異性介助に特に問題なく応じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からの声掛け、会話の中から本人がふと言ったことを大切にしながら、思いを汲み取り接するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、それぞれの動きに沿って、出来る限り利用者のペースで生活出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔な衣服を身に着けていられるよう、食べこぼしなどで汚れた時は速やかに更衣して頂いたり、わからない方でも本人本位を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の果物を添えたり、誕生日には昼食を作ったり、食べたいものや好きなものを準備している。食後は後片付けを出来る方には手伝って頂いている。	一時、コロナの影響もあり副食を外注したことがあったが、今は職員の手作りのものを提供している。各棟、冷蔵庫の食材を見て献立を決めている。利用者は、テーブル拭きや食器洗い、食器拭き等を手伝っている。畑の手入れは困難になってきたが、収穫は楽しむことが出来ている。運営推進会議の委員と会食することもある。行事食を楽しみ、最近では、水木団子をあんこ、ゴマ、胡桃で食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	甘くないお茶などの水分を好まない方には、お粥に替えたり汁物を多めにお出しするなどし、栄養が偏らないような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、それぞれに合った物品を準備し、一部又は全介助など、一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレに行けない方は訴えがあった時、トイレ誘導が必要な方にはそれぞれのタイミングで対応している。	利用者全員のトイレでの排泄を支援している。手引き歩行者の利用者は歩行訓練も兼ねて、車椅子の利用者は便座に座ることで立ち上がり訓練を兼ねて支援している。個々の状態により、使用目的に合わせたパット、おむつ、リハビリパンツ等の排泄用品を選択し、家族の了承を得て使用している。排泄介助時、羞恥心から排泄用品の交換を抵抗する利用者には、決して力づくでの対応をせず、どのような言葉かけや仕草がいいのかを話しあい実践している。入居後に、排泄の機能が改善した利用者も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、水分摂取量の確保、個別に起床後の1杯の水を飲んで頂いたり、便秘解消の体操を一緒に行うなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行い、入る日や時間を決めず一人ひとりに合わせた入浴の仕方で支援している。	入浴は、基本は午後としているが希望により午前入浴や毎日入浴等、何時でも入浴できるよう浴室の準備をしている。入浴を嫌がる利用者には「体重を測りましょう」などと、声掛けして浴室に誘導し入浴出来ている。異性介助にこだわる利用者はいない。現在はいないが、寝たきりの利用者には、隣接のデイサービスの機械浴を利用することが出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を清潔に保ち、お昼寝も含め眠くなったらすぐに休んでもらえるよう、本人のペースで過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	前日に夜勤者が薬をセットし、遅番がチェックしている。服薬時には名前、個数など更にチェックしてから手渡しで服薬して頂いている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム今が一番館 西棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、掃除、食器拭きなど毎日の手伝いや、体操の参加、手芸や計算ドリルをしたり、季節ごとに庭へ出て花見や栗拾いなどを楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、受診以外の外出支援は行っていない。	外出制限が続いている中で、かかりつけ医の受診は職員が同行し、数少ない外出の機会でもある。全員で雫石や渋民方面にドライブし、足湯を喜ばれた。広い敷地内の畑で野菜を育てており、利用者は一緒に収穫の手伝いをしている。ホール脇にはベンチとテーブルが置かれ、食事や外気浴を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、買い物の為の外出支援は行っていない。ホームの買い物の時に、希望の品を伺い購入してきてお渡すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を掛ける方はいないが、掛かってきた電話はお繋ぎして話をして頂いている。手紙のやり取りをしたい方には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節の飾り付けをしたり、花を飾ったりしている。来客中に玄関のセンサーが鳴り続けるのを防ぐため、スイッチの移設、増設を行い、ON・OFFの切り替えをしやすくすることで不快な音を少なくするよう配慮している。	デイサービスを挟んで東・西棟は同じ仕様になっている。天窓が広く、天気の良い日には心地よい光が差し込んでいる。各棟のホールには、食事用の大きなテーブルが2卓と椅子、テレビ、大型エアコン、温風ヒーター、加湿器が配置されている。壁面には、行事の写真が芸術的に貼付され、小正月の水木団子も飾られている。8畳の小上がりでは、看取りの近い利用者が、他の利用者と一緒に過ごすこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席を気の合う利用者同士を近くにしたり、座敷に上がる所で腰を掛けて休むことが出来ている。また、座敷の窓の所で観葉植物を育てている方もいる。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム今が一番館 西棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	ご家族の写真や、思い入れのある品を飾って頂 いている。	居室は、ブラウンの落ち着いた色のフロアで、 ベッド、温風ヒーター、扇風機とカーテンで仕切ら れたクローゼットが備え付けになっている。クロー ゼットの衣装ケースや小箆筒に、衣類が収納さ れている。壁面のコルクボードには、家族手作 りの手芸品や家族写真が貼られ部屋に彩りを添え ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入り口、扉に大きく「トイレ」と表示してい る。居室の入り口に表札をつけているが、少しあ やふやな方には、わかりやすい飾りをつけて間 違いにくくしている。		